



図書館だより 5 月

新学期が始まって 1 か月余り。少しずつ学校生活にも慣れてきたころですね。先月から朝の読書もスタートし、日々の中で本に触れる時間が増えてきました。また、ホームルーム活動や国語の授業では、すでに図書館を利用してくれたクラスもあり、とてもうれしく思っています。

図書館では、短時間でも楽しめる本や、読みやすい本をたくさん取り揃えています。「読むのが苦手」という人も大歓迎です。忙しい毎日の中でも、本を開く時間をつくってみませんか。

今年度の課題図書が決定！

第 72 回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書が決定しました。

1・2 年生は夏季休業中の課題として読書感想文を書きます。

課題図書で挑戦しようと思う人は早めに読んでおくといいですね。

6 月には図書館にも入る予定です。ぜひご利用ください。

『平和のうぶごえ:「原爆の子」として生きた 80 年』

早志 百合子:著 (毎日新聞出版)

『ノアハム・ガーデンズの家』

ペネロピ・ライヴリー:著

斎藤 倫子:訳 (ゴブリン書房)

『スウィッシュ！』

藤ノ木 優:著 (徳間書店)

自分にもきっと新しい可能性がある。運動が苦手なキャプテンと骨折したエース。ふたりの絆が奇跡を起こす、青春バスケット小説。

世界中で読み継がれる、広島
の被爆少女の体験手記
『原爆の子』。最晩年を迎えた
その執筆者らがいま伝えた
こと ※ノンフィクション

1970 年代のオックスフォード。
古い家におおばと暮らすクレアは、
物置で見つけた異国の箱をきっかけ
に、奇妙な夢を見るように……。

おすすめ!

■ノンフィクション(エッセイ・教養書)

『名画の中で働く人々「仕事」で学ぶ西洋史』

中野 京子:著 (集英社文庫)

名画の中に描かれた「仕事」に注目し、有名な絵の中で人々がどのような役割を果たしているのかを読み解いていく一冊です。

羊飼いや看護婦(今は看護師ですが…)、女性科学者など、様々な職業にはそれぞれの歴史があり、名画を通して西洋の社会や人々の生き方まで見えてきます。

美術が苦手でも読みやすく、少し大人な教養に触れられる本です。

■ノンフィクション(健康・運動の実用書)

『体力おばけへの道 頭も体も疲れにくくなるスゴイ』

澤木 一貴:著 (KADOKAWA)

「なんかダルい」「すぐ疲れる」それって、体力の問題かも。
部活でへとへと、勉強も集中できない——そんな毎日、
もしかしたら「体力」が足りていないのかもしれません。

この本は、特別な才能やハードなトレーニングではなく、
毎日のちょっとした動きで体力をつける方法を教えてくれます。
疲れにくい体は、部活のパフォーマンスも、受験勉強の集中力も
変えてくれるはず。まずは 1 日 3 分から、自分の体を変えてみませんか。

■フィクション(SF 小説)

『華氏 451 度(新訳版)』(早川書房)

レイ・ブラッドベリ:著

伊藤 典夫:訳

『1984』(角川文庫)

ジョージ・オーウェル:著

田内 志文:訳

「ディストピア小説」

(= “理想っぽいけど

実はヤバい未来”を描く)

どっちの世界が一番ヤバいか、
考えてみて!!

本がダメな世界
👉そもそも考えなくなる

ずっと監視されてる世界
👉ビッグブラザーが見てる(ガチ)